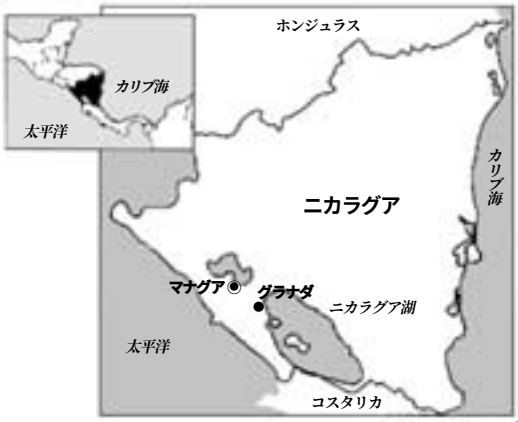
「ユニセフ子ども物語」

地球に生きる子どものくらし

Republic of Nicaragua

ニカラグア共和国



©UNICEF/96-0599/Carolyn Watson

ヴィルマの美容院

「とても素敵にできてるわ。あなた、いい美容師さんになれるわよ」。お客さんのことばに、ヴィルマ・イザベルはぱっと赤くなり、そして笑顔いっぱいになりました。チップをはずんでくれたそのお客さんは、ヴィルマの初めてのお客さんだったのです。

ここは中米ニカラグアの首都マナグア。通りの一角にヴィルマたちの小さな美容院があります。ここにいるのは、「働く子どものためのセンター」の職業訓練コースで美容師になるために勉強している13歳から18歳までの生徒たちです。みんなでかわりばんこに通ってきては、お客さんの髪を整えます。美容師のひよこたちの仕事ですから、料金は格安です。売り上げは、20%がセンターの運営費になり、残りはヴィルマたちの収入になります。その収入は家のくらしや学校に行くためのお金になるのです。

＊＊＊＊＊

ヴィルマはストリートチルドレンでした。とうさんは長く続いた内戦で亡くなり、ヴィルマは小さいころからかあさんと二人、通りでココナツキャンディーを売ってくらしてきたのです。知っているのはキャンディーの売り方だけ…。ヴィルマは3年生になる前に小学校をやめていました。「学校に行ってれば、もっとちがうことができたかもしれないのに。もう一度勉強がしたい。」大きくなるにつれて、ヴィルマは学校をやめたことをとても後悔するようになりました。

＊＊＊＊＊

そんなヴィルマにチャンスがやってきました。「働く子どものためのセンター」ができ、大工や美容師などの仕事を教えてくれることになったのです。ヴィルマは真っ先にかあさんに相談しました。「わたし、美容師になりたい」。

＊＊＊＊＊

ヴィルマは美容師のクラスに入ることができました。学校に通うことがセンターで勉強する条件だったので、ヴィルマはもう一度3年生から学校にも行くことになりました。

センターは政府やユニセフが支援してくれるとはいえ、道具や器材が十分そろっているわけではありません。髪を巻くためのカーラーもストローで代用します。けれども、新しいことを覚える楽しさにヴィルマは夢中です。毎日授業が待ち遠しくてたまりません。

センターでは友だちもできました。その一人、ユアン・ホセは室内装飾クラスで勉強しています。「おれ、ここを卒業したら、とうさんたちのいるグラナダに帰って、室内装飾屋をはじめようと思うんだ。グラナダにはそんな商売ないからさ、おれが一番最初だよ」。うれしそうに話すユアンがまぶしく見えます。ヴィルマは青い空に手をかざしました。「うん、がんばって。わたしもいつか、マナグアにわたしの美容院を開くからね」。ヴィルマの胸の中で「いい美容師さんになれるわよ」というお客さんのことばがこだましていました。

（文：日本ユニセフ協会）

学校外教育で子どもたちを支援する

ニカラグアの首都マナグアに3か所設けられている「働く子どものためのセンター」は、1986年に子どもとその家族の支援を目的に開設され、「ニカラグア子どもと家族基金」によって運営されています。ユニセフをはじめ多くのNGOがこの基金を支援しており、1996年、ユニセフは、基金による子どものためのプログラムに93,000米ドルを拠出しています。

＊＊＊＊＊

ニカラグアは、長引いた内戦により、多くのストリートチルドレンをうみました。1人あたりのGNPは340ドル、中米で最も低い国のひとつです。人口の3分の2は職を求めて都市に集中し、子どもたちも工場や市場、路上での仕事のために学校をやめざるを得なくなりました。街にも家庭にも、貧困や

© UNICEF/Maria Morrison

不衛生な環境、暴力があり、アルコールや麻薬に逃げ込む子どもたちもいます。

＊＊＊＊＊

自立と仲間の協力を目標とするセンターでは、1994年から、大工・室内装飾・美容師・洋服の仕立て、の4つの職業訓練コースが設けられ、13歳から18歳までの子どもたちを受け入れています。とくにストリートチルドレンなどを優先的に受け入れており、現在380名の子どもたちが学んでいます。生徒たちは40人ほどで共同組合をつくり、職業を学ぶと同時に、その技術をいかしてお金を稼ぐことができます。このような場を確保することが、より子どもたちが通いやすい状況を整えることになり、また、自立して生きていくための実地訓練にもなっています。コースに通う子どもたちは学校へ行くことが前提条件となっており、学校外での教育の場の充実が、学校教育と相互に補いあって子どもたちを支えています。

教員や教材の不足が課題として残っており、十分整ったセンターというわけではありませんが、センターは、子どもたちの未来をひらく貴重な場所となっています。

©UNICEF/Sean Sprague

裁縫や土木を学ぶ生徒たち。ニカラグアでは、学校外の柔軟な教育が広まってきています。

©UNICEF/Sean Sprague

センターで学ぶ子どもたちのことばを紹介します

カーラ、17歳

「わたしは、中学校に行きながら、美容師クラスで勉強しています。美容師として稼げるお金で、大学へ行こうと考えています。家族の中ではじめてわたしが大学へ行く、これがわたしの夢なんです」

エドガー、16歳
（室内装飾クラスに在籍）

「通りでは、みんなただぶらぶらしたり、何かものを売ったり、それだけさ。でもここ（センター）なら、友だちもいるし、家族みたいな雰囲気もあって、だれかが助けてくれるっていう気がするんだ。ぼくの兄貴は途中で全部あきらめちゃって、毎日通りでぶらぶらしてる。そんなふうにならなくてよかったと思うよ。ここじゃ、技術がなければ、将来自分の人生を選んでいくなんてことはできないんだ。」

ニカラグアについて

面　積 12万9541km²（日本の約3分の1）

人　口 440万人（16歳未満人口：240万人）

主要言語 スペイン語

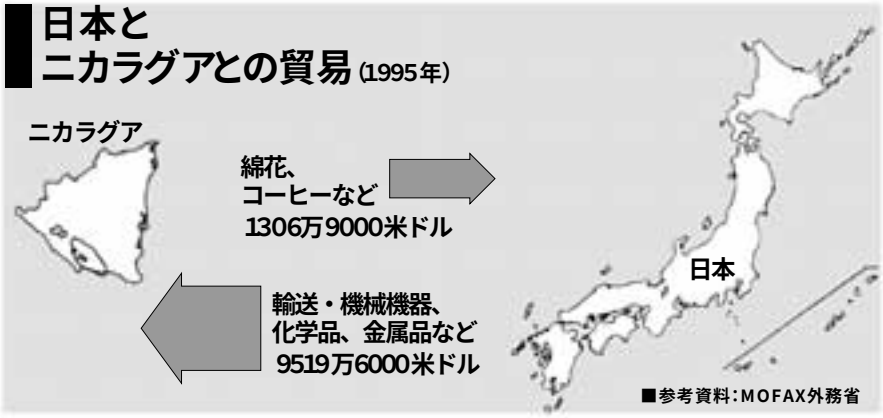
5歳未満児死亡率
1960年209人／1995年60人
（1000人の出生に対して）

小学校1年生に入った児童が5年生まで残る割合
54％（1990～1994年）

成人の識字率
男性65％、女性67％（1995年）

（出典：ユニセフ『1997年世界子供白書』）

日本とニカラグアとの貿易（1995年）



■参考資料：MOFAX外務省